

だいじょうほんしゅうしんぢかんぎょうむくしゅうほんげほうえじつしゅうり
大乘本生心地観経無垢性品偈法衣十胜利

ちこうびくまなよき だいふくでんね じゅう すべり
智光比丘応に善く聴くべし。大福田衣に十の勝れたる利あることを。
せけん いふく よく けがれ ま にょらい ほつぶく かく じつ
世間の衣服は欲の染を増せども、如来の法服は是の如くならず。

ほつぶく よよ しゅうち おお ざんぎえんまん ぶく しゅう た かん
法服は能く世の羞恥を遮い、慚愧円満して福を生ずる田なり。感
なつおよ どくちゅう おんり ぶつしんけんし くきゅう う じげん どん
熱及び毒虫を遠離し、道心堅固にして究竟を得。出家を示現して貪
欲を離れ、五見を断除して正修行せしむ。袈裟宝幢の相を瞻礼し恭
敬せば、梵王の福を生ぜん。仏子衣を披て塔の想を生ぜば、福を
しゅう じみ ほろ こんでん かん かたち とこの うちまい つく しん しゃもん
生じ罪を滅ぼして人天を感じん。容を肅え敬を致す真の沙門は、
しし もろもろ けが しよぶつ ほめたた りゅうでん なす
所為 諸の塵俗に染されず。諸仏は称讚えて良田と為けたまう。
くんじゅう りらく これ さい な けさ じんりき ぶしぎ
群生を利樂するには是を最と為すと。袈裟の神力は不思議にして、
み ぼだい ぎゃつ しじき みち めぼえ ぞうじつ ばつ ほん
能く菩提の行を修直せしむ。道の芽の増長することは春の苗の如
く、菩提の妙果は秋の実に類たり。堅固なる金剛の眞甲冑は、煩惱
どくや そのの あた われいまじやく じじつ すく たた
の毒箭も害うこと能わず。我今略して十の勝れたる利を讚えしも、
じゅう へ ひる と かぎ あ
劫を歴て広く説くとも辺り有ることなけん。

も りゅうあ み いちる つ こんじつおつ じき まぬ
若し龍有りて身に一縷を披くるも、金翅鳥王の食を脱がること
え も も ひとつみ わた こ え たも りゅうぎよしよき なん おそ
を得ん。若し人海を渡らん此の衣を持てば、龍魚諸鬼の難を恐れ
じ。雷電霹靂天の怒りにも袈裟を披る者には恐れ無けん。白衣若し
よ みずから ぶ じ いっさい あつきよ ちか な も よ
能く親ら捧持せば、一切の悪鬼能く近づくこと無けん。若し能く
ほつしん しゅうけ もと せけん おんり ぶつじつ しじつ じつぼつ まぐうみな
発心して出家を求め、世間を遠離して仏道を修せば、十方の魔宮皆
しんじつ こ ひとつすみやか ほつおう み じョウ
振動し、是の人速に法王の身を証せん。

在家授衣作法

- 一、 殿鐘三会
 - 一、 加行位
 - 一、 七下鐘戒師入堂
 - 一、 上香普同三拝
 - 一、 戒師登座
 - 一、 受者法堂上香三拝
 - 一、 戒師前上香三拝・着座
 - 一、 戒師三宝奉請（受者合掌）
 - 一、 十仏名
- 授袈裟（五条衣・絡子）
- （受者長跪 授袈裟致語三薰三唱）
- 塔袈裟偈
- （受者頭にのせ二句目より唱和）
- 一、 着衣三拝
 - 一、 戒師降座
 - 一、 本尊前焼香 打 三拝
 - 一、 読経 法衣十勝利
 - 一、 回向
 - 一、 普同三拝
 - 一、 戒師退堂
 - 一、 散堂

授袈裟致語

菩薩大士一心に念じたまえ
我れ弟子某甲、此の安陀衣五条衣、
一長一短の割截衣をば受けて持つ
が故に

塔袈裟偈

大哉解脱服 無相福田衣
披奉如来教 広度諸衆生

受衣作法回向

糞掃正伝 是非封外天地寂爾

染壞玄軌 聲色向上威儀儼然

仰冀三寶 俯垂照鑑

上來於當山嚴淨道場 某比丘

受衣作法之因 現前清衆同音

諷誦 大乘本生心地觀經無垢性品偈法衣十勝利

所集功德 回向

三世十方一切三寶

大恩教主釈迦牟尼如来

高祖承陽大師 太祖常濟大師

三國傳燈歷代祖師

當寺開山某甲大和尚 歷住諸位大和尚

慈雲飲光大和尚 默室良要大和尚

乃至 衣法傳持有功之菩薩

護法龍天善神 日本国内大小神祇

一切聰明施者受者 裁縫隨喜 見聞衆生

法界含識 伏願

奇特調度 長覆護 雲水衆

十勝妙利 速證得 法王身